

令和3年5月15日、名古屋で行われた七段審査に幸運にも合格する事が出来ました。ひとえに新宿剣道連盟の皆様のおかげです。本当に有難うございました。色々なことを丁寧に親身になって教えてくださった先生方、先輩方、弱気になった時励ましてくれた仲間感謝の気持ちでいっぱいです。

コロナ禍による緊急事態宣言のなか稽古場所もなく、TVでは病院も逼迫して死亡者もいる、このような状況で自分は剣道をしていいのか、誰かに迷惑がかかってしまうのではないかと迷いがありました。先輩や家族に相談し、考えました。しかし、全剣連では審査会は中止になっておらず、きっと会場は感染対策しているはず、せっかく申し込んだのだから、次の審査に繋がられるよう勉強をしに行くつもりで名古屋行きを決断しました。

さて受審するからには今の自分に出来る事は、素振り・ランニングだと考えました。また、審査日に合わせて生活リズムを作るようにしました。起床時間、朝食時間を合わせ、集合時間・審査時間をイメージするようにしました。(子供の受験の対策を参考にしました)

毎朝、まず家族の朝食の下ごしらえをしておき、それから家族が家を出る前に帰ってこられるよう、ランニングをしました。坂道を利用し、掛かり稽古のつもりで心拍数を上げて行いました。素振りは、竹刀を台所の近くに置き、夕飯作りの煮物を煮ている間の10分間や、洗濯機を回している間の短時間に一本一本集中して教えていただいたことを思い出して行いました。

いよいよ審査当日、どんよりと曇っていました。とにかく感染に気をつけて審査を受けて、お土産に名古屋名物の味噌カツ弁当を買って帰る。弱気にならない。富士山は見えなかったけど、余計なことは考えないと心がけました。

審査会場に入ると、いつも通り緊張しましたが、この会場でやっと防具をつけて剣道ができるのだという特別感があり気分が高揚してきました。面をつけて順番待ちの時は

緊張で喉がカラカラでした、先生方からの教を頭の中で思い浮かべ、集中しなければ、と自分に言い聞かせていました。自分の番になり、お相手と礼をして蹲踞をしたら、突然、剣を交える剣道ができる喜びと感謝の気持ちが込み上げてきました。声を出すと緊張が溶け、お相手とお互い頑張りましょうという気持ちでしっかり構える事が出来ました。焦らずじっくり攻め入って思い切り技を出す事ができました。途中、先生の「せめろ！ 思い切って打て！左手！」と声が聞こえた気がしました。

審査後、このような環境の中でやっと防具をつけて剣道ができて楽しかったと余韻に浸り、うまく打てなかった面もあったなぁと振り返り反省しました。

合格の番号を見た瞬間、先生方への感謝の気持ちでいっぱいになり、それと同時に七段になったという責任の重さを感じずにはいられませんでした。

帰りの新幹線では、今までどのようにして自分が剣道をしてきたのかを回想していました。

新宿剣道連盟の先生方にお稽古をつけていただいた事はもちろん、小学生の時に竹刀を初めて買ってもらった時の嬉しさ。中学・高校と全国目指して汗と涙を流した監督・仲間、大学時代剣道が嫌になり悩んだ時見守ってくれた両親・友人。主人の転勤の都合で大分県に移住した時に、再び剣道の面白さを教えてくれた先生。沖縄に移住していたときは、家庭を大事にする、そして稽古を短時間でも一生懸命する、そして家族に感謝する、という家庭円満の秘訣を教えてくれた先輩。岡山では正しい剣で勝負する楽しさを教えてくれた先生。いつも叱咤激励してくれる娘達、それを暖かく見守ってくれる主人と息子。本当に多くの方々のおかげでここまで来られたと幸せを噛みしめていたら、あっという間に東京に着いていました。富士山も帰りは、はっきりと見えました。

これからは七段の名に恥じないよう精進していきたいと思っています。どうぞ今後とも変わらずご指導・ご鞭撻のほどよろしく申し上げます。

令和3年5月23日

久富きよら